

- ① 視学委員名と視察対象
- ア. 学習指導 福島大学教授 島貫快祐  
訪問校 桜丘小学校  
中村第一中学校  
相馬高等学校
- イ. 理科 福島大学教授 菅野常吉  
訪問校 白河第二小学校  
表郷中学校  
白河女子高等学校
- ウ. 美術 福島大学教授 青津青喜  
訪問校 荒海小学校  
桧沢中学校  
田島高等学校
- エ. 商業 福島大学教授 三宅皓士  
訪問校 片平小学校  
三穂田中学校  
郡山商業高等学校

② 視察日程  
昭和41年11月上旬（2泊3日）

③ 視察内容

- ア. 学校経営状況の聴取と視察  
イ. 授業参観  
ウ. 指導・助言

(6) 視察報告

各視学委員より視察報告書が提出されているとともに、視察報告会が開催された。

- ① 期日 昭和42年2月7日  
② 場所 日興証券・会議室  
③ 視察報告の概要

ア 学習指導

高校においては、講義形式の授業が多かったが、問題意識をもった授業が見られた。板書（重要事項の視覚化）、ノートの問題等、今後の研究課題である。中学校は校長の教育方針が学校に浸透していた。小学校は学校全体がよくまとまって活気があった。児童の体位向上のために、体育の指導が今後の研究課題であろう。

イ 理科

小学校については、思考力を伸ばす指導上のくふうが必要。中学校については、校内研修、地域研修をもりあげること。高校については、授業研究に力を入れ、また新卒教員を指導し、研修の機会を与えること。

一般的に、今後の課題として授業研究をすすめ、授業の密案を書き、実験の記録をとるようにすること。

ウ 美術

各校とも校長の授業指導が徹底している。残された問題としては、小学校の美術教育において、美術の専門的な研修の機会をもつこと。また、中学校、高等学校においては、できれば美術室を含めて、備品を充実させたい。

エ 商業

校長の学校経営の抱負と教師の考え方に断層があるように思われる。校長の積極的な学校経営の考え方が、

各教師に浸透するように、じゅうぶん配慮すること。

商業教育については、施設、設備は一応整っているが、現時点においてはさらに充実させる必要がある。商業の内容をとおして、考えさせる教育をすること。教師は、教科に対する正しい認識をもつようにすること。

## 第5節 道徳教育・生徒指導

### 1 道徳教育

本県の道徳教育は、各学校および関係機関の努力によって漸次充実し、すぐれた実践がみられるようになってきている。しかし、実践の深さに学校差がみられ、一般的にみて次のような傾向がみられる。

- ① 道徳教育がややもすると道徳の時間にのみまかされやすい傾向がみられる。
- ② 道徳教育の全体計画がじゅうぶん整備されていない。
- ③ 年間指導計画および主題の展開案等の整備がまだじゅうぶんでない。
- ④ 指導過程についての研究が形式化し、指導に弾力性が欠けてきている。
- ⑤ 道徳の時間の指導法が「読み物の利用」にかたよってきている傾向がみられる。
- ⑥ 道徳の時間の資料が「読み物」にかたよってきている傾向がみられる。
- ⑦ 道徳の時間の指導資料の整備と活用に問題がみられる。
- ⑧ 道徳性の評価に困難を感じている。

これらの問題は、道徳教育講習会・教育課程研究集会・自主的研究団体の研究活動・道徳教育研究学校の研究発表会等を通じて、実践的研究を積み、

- ① 道徳教育観の確立
- ② 道徳の時間の性格
- ③ 道徳教育の全体計画の性格と構想
- ④ 効果的な指導過程と指導法
- ⑤ 道徳の指導資料の整備と活用
- ⑥ 道徳性の評価の方法

等の問題の解決をはかり、教育活動全体のなかで行なわれる道徳教育と、道徳の時間における道徳教育との関係が明らかにされ、道徳の時間の性格とねらいが明確におさえられるようになってきている。

また、文部省編集の指導資料第1集・第2集・第3集が各学校にゆきわたり、よい資料の選択に役立つとともに、指導の充実のために活用されてきている。

昭和41年度においては、道徳教育の推進をはかるため、次のような講習会・研究会が開催された。

(1) 小学校教育課程研究集会道徳部会

- ① 研究主題  
「道徳の時間における視聴覚教材の効果的な利用はどうかあればよいか」
- ② 期日  
9月19日、20日（2日間）
- ③ 会場